



Weekly Market Report

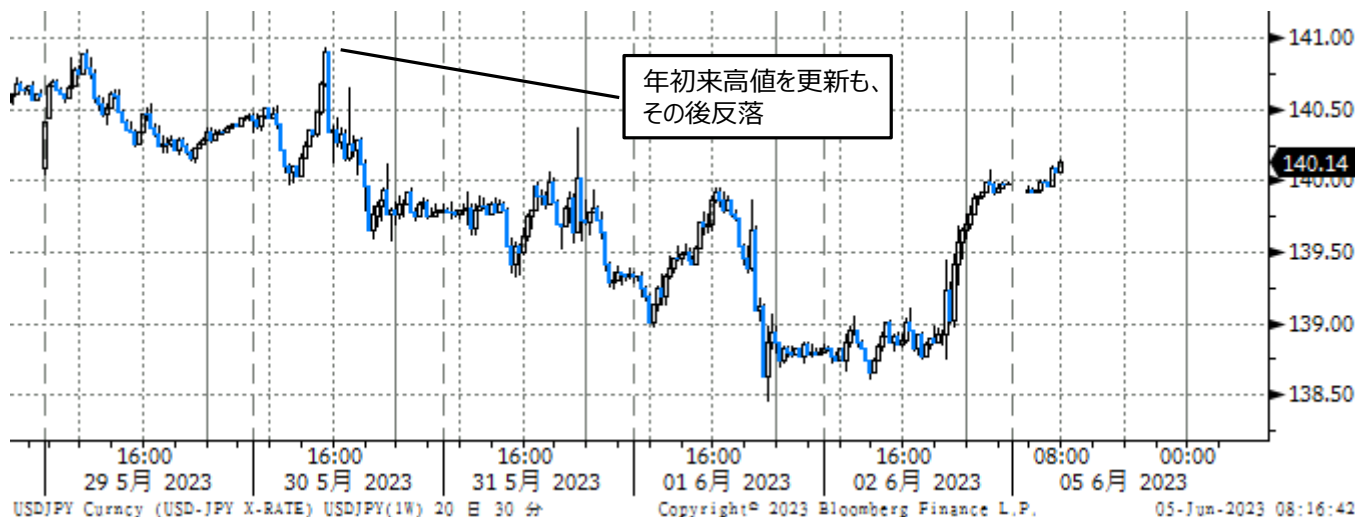
Jun 5, 2023

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

年初来高値を更新も円安率制の警戒感から反落。今週はFOMCを前に方向感に欠ける展開か。

USD/JPY (1週間の値動き)



(出所) Bloomberg

コメント

先週のドル円相場は、週末にかけて円高方向にジリ高も週末に反発する展開。週初は米債務上限問題原則合意の報道からドル買い先行。米休日を挟みもみ合うも、植田日銀総裁の緩和政策維持の発言から140.92円台と年初来高値を更新。しかし、財務省、日銀、金融庁の三者会合が報じられると円安警戒感が広がり、反落。週中にかけても米当局者のハト派発言が円高をサポート。一時138円台半ばまで下落も、注目の米雇用統計で堅調な労働市場が示されたことにより、米金利上昇。ドル円も140円台前半まで値を戻して越週している。今週は14日FOMCを控え、ブラックアウト期間に突入。雇用統計の結果を意識し、ドル買いの調整に注意。一方で、利上げ休止の見方が優勢であることに加え、過度な円安進行には為替介入の警戒が再燃することから、上値は重いと予想。(市場営業部/嵯峨)

今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
6/5(月)	(米国) ISM非製造業景気指数	52.5
6/6(火)	(豪) 豪中銀政策金利決定会合	-
6/8(木)	(欧州) GDP (前月比)	0.1%
6/8(木)	(米国) 新規失業保険申請件数	23.7万人
6/9(金)	(中国) 消費者物価指数	0.2%

USD/JPY (5年間)



(出所) Bloomberg

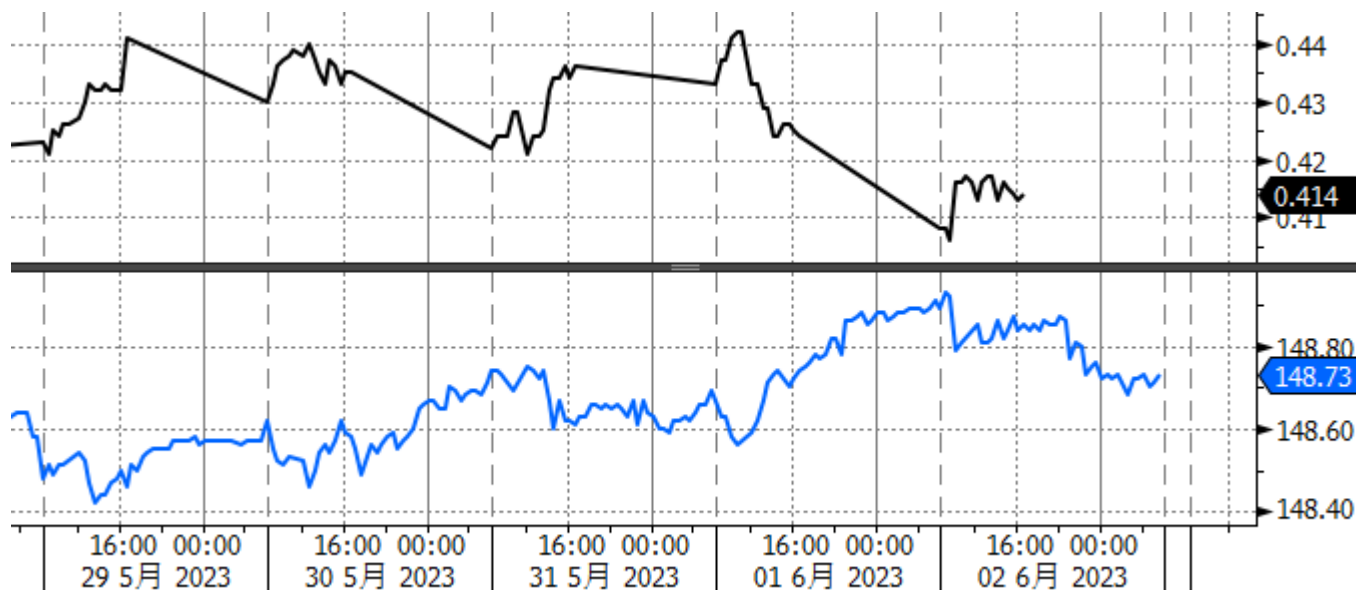
今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
下出康平	138.20 - 142.00	来週のFOMCを前に小幅な動きを予想。今週は判断材料が少ないだけに、市場の思惑による急な動きに注意したい。
鈴木万里子	138.00 - 140.90	FOMC前のブラックアウト期間に入り、来週の米CPI発表まで値動きは限定的か。介入懸念からも上値は重い展開に。

2. 円金利相場概況

先週の10年国債入札は堅調。今週も10年国債金利は上昇しにくい地合いか

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



GJGB10 Index (日本国債10年) JGB.F 20 日 30 分 Copyright © 2023 Bloomberg Finance L.P. 05-Jun-2023 07:52:46

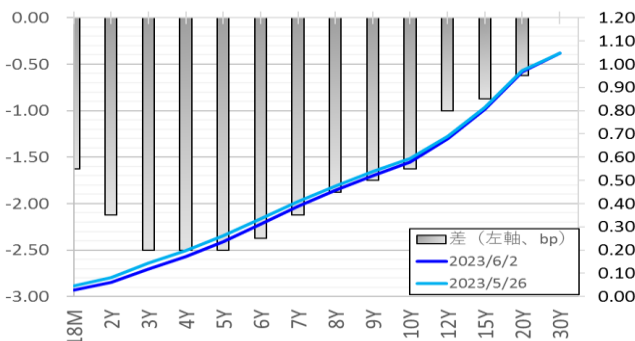
コメント

米債務上限をめぐる協議でバイデン大統領と共和党マッカーシー下院議長が原則合意したとの報道を受けて債務不履行回避でリスク選好の流れから、週明け29日の10年国債金利は上昇した。30日は米国債券市場休場の中、欧州債が堅調地合いだったことや、月末買いのフローも入り、超長期債主導で金利低下した。1日実施された10年国債入札は一定の需要を集め、入札後は金利低下した。2日は年限によってまちまちな値動き。中長期債は米金利につられる形で買い優勢も、超長期債は翌週の30年国債入札が意識されたのか売り優勢だった。今週は6日に30年国債入札、8日に残存期間5年超15.5年未満の流動性供給入札が予定されている。30年国債金利は堅調に通過した前回入札と同水準まで回復していることがサポート材料となるため堅調通過を予想。翌週末に日銀金融政策決定会合を控えてYCC修正に対する警戒感がくすぶっているものの、1日の10年国債入札は堅調に通過していること、6日の30年国債入札が堅調に通過することで、10年国債にも買いが入る可能性もあることから、10年国債金利は上昇しにくい地合いになると予想している。(市場商品部/金利MMG)

(出所) Bloomberg

金利スワップ変化（1週間）

(%)



10年円金利スワップ推移（5年間）

(%)



JYSO10 Curney (JPY SWAP OIS 10Y) Yen SWAP 5Y 日経 16NOV2016-05JUN2023 Copyright © 2023 Bloomberg Finance L.P. 05-Jun-2023 07:53:04

(出所) Bloomberg

今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
小野口裕美子	0.37% - 0.46%	現状米金利との相関が低く、円金利は来週の日銀決定会合を控えてレンジ推移を予想。FOMCの利上げ有無には注目。
亀田則子	0.36% - 0.45%	今週は金利上昇は限定的と予想。米金利利上げは見送られる見方が強く金融引き締め環境は続く可能性を予想。

3. 今週のトピックス

スイスフラン相場動向

スイス国立銀行の金融引き締めを受けて、スイスフランはリスク回避通貨としてより選好される通貨に

<スイスの経済状況>

スイスの実質GDP成長率については2022年が+2.15%、スイス政府の予測では2023年+1.1%、2024年+1.5%となっている。2023年1-3月期の成長率は前年比+0.6%と前回を下回る結果となったが、スイス国立銀行(SNB)の利上げが景気の重しになったとみられる。

CPIについては、2022年には前年比+3.5%まで上昇していたが、足元ではピークアウトしつつあり、スイス政府の見通しでは2023年+2.4%、2024年+1.5%と、エネルギー需給の緩和を受けて徐々にインフレは沈静化する見通しだ。ただし、2023年4月のCPIについては、総合で前年比+2.6%と鈍化傾向が示されたものの、食品およびエネルギーを除くコアCPIについては前年比+2.2%と高止まりが継続している【図表1】。

<スイスの金融政策>

SNBは、2014年よりマイナス金利政策を採用し、2019年からは-0.75%の政策金利を続けてきた。その後、インフレに対応するため、2022年から利上げを再開。合計2.25%の利上げで現在の政策金利は1.50%となっている。SNBは今後もインフレ動向に応じて追加利上げを行う可能性を示唆しており、市場では年内にあと40bp程度の利上げが織り込まれている。また、SNBは物価の安定に必要であればスイスフランに対する為替介入も積極的に行うことを表明している。スイスの2年金利と10年金利は現在ともに1.0%程度でイールドカーブはほぼフラットとなっているが、2年、10年ともに政策金利を下回る水準となっており、将来的な景気悪化と利下げが見込まれている状況だ【図表2】。

<当面のスイスフラン相場見通し>

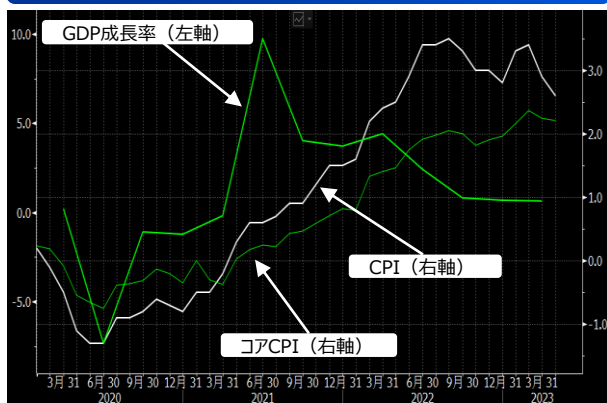
スイスは対外純資産国であることに加えて、貿易黒字が続いていることから、リスク回避通貨として選好されている。スイスフランの対ドル相場は今年3月の米シリコンバレーバンク破たん以降のリスクオフ局面で上昇圧力が強まり、5月には2021年以来の高値となる0.8820までスイスフラン高が進行。

また、スイスフランの対円相場についても、日銀が緩和的な金融政策を続けていることに加えて日本の貿易赤字もあり、5月にスイスフラン円相場は1979年以来となる155円台まで上昇している。今後もFRBの利上げによる米国景気の後退懸念や米国中小金融機関の経営不安のほか、ウクライナ戦争、台湾を巡る米中対立などの地政学リスクも多く存在していることから、スイスフランはリスクオフ通貨として堅調な展開となりそうだ。

スイスフラン相場の当面のレンジとしては、対ドルでは200日移動平均線をサポートとした0.8800-0.9400、対円では147.00-157.00円を想定している【図表3】。

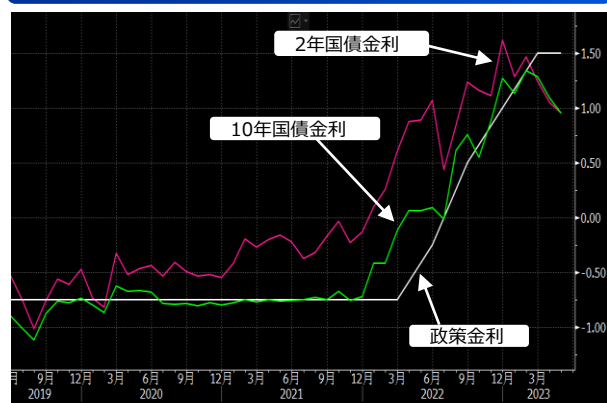
(チーフ・マーケット・ストラテジスト／諸我)

【図表1】 スイスのGDP成長率とCPI (%)



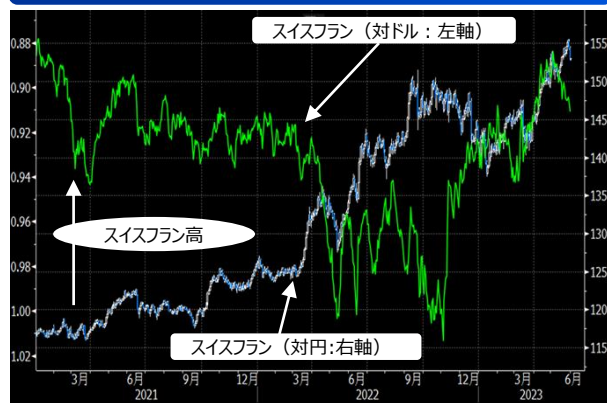
(出所: Bloomberg)

【図表2】 スイスの政策金利と2年、10年金利 (%)



(出所: Bloomberg)

【図表3】 スイスフランの対円、対ドル相場



(出所: Bloomberg)

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会